



令和6年能登半島地震に関するアンケート

79件の回答

[分析を公開](#)

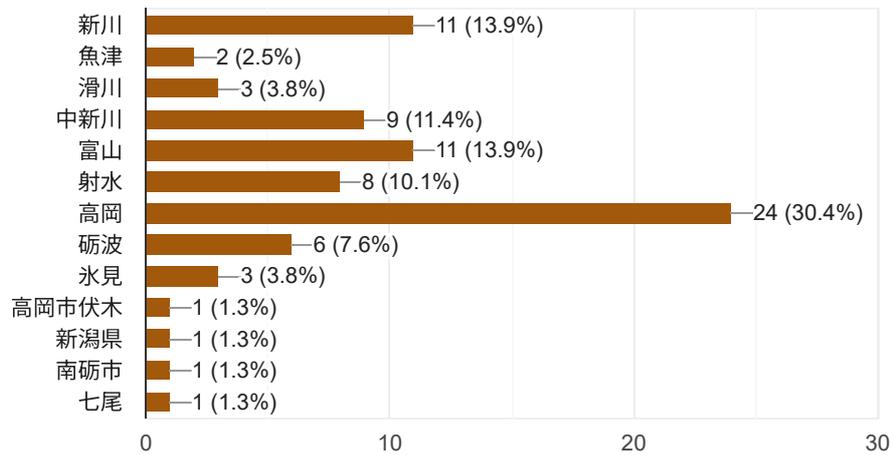
所属にチェックを入れてください。

 コピー

協会非会員の方は、その他の欄に、地域名を記入ください。

災害派遣の方は、その他の欄に、主な派遣地域を記入ください。

79件の回答

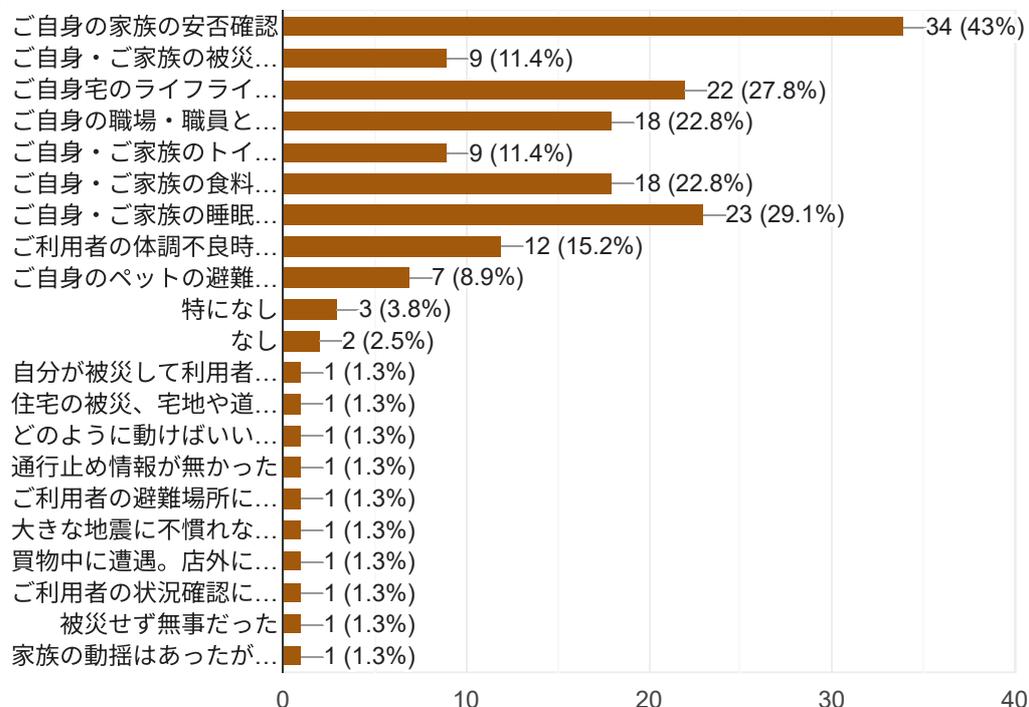




Q1-1 ケアマネジャーご自身が、地震発生直後に困ったことは何でしたか【支援者自身の被災】

以下、あてはまる項目があればチェックし、項目以外の内容は、次の設問（Q1-2）でご記入ください。

79 件の回答



Q1-2 ケアマネジャーご自身が、地震発生直後に困ったことは何でしたか【支援者自身の被災】

上記項目の具体的な内容を教えてください。

また、上記項目以外での内容について、ご記入ください。

79件の回答

特になし

なし

水が濁った

お正月であったため、外出していたため帰宅できるか、路上の状態。余震の怖さ。自宅内の破損がないか？

ライフラインが崩れていないか、出勤できるか、自宅の被災状況の確認

怖かったです。どう行動すればよいかわからなかった。不安が大きく、気持ちが不安定だった。

地震発生直後、断水となり、飲料水・食事の準備や洗い物、トイレ・お風呂・洗濯・手洗い等に支障が出ました。

出勤前の明け方にコインランドリーで順番を待ち、洗濯し、仕事帰りに給水車から水をもらい、断水の被害がなかった地域の銭湯に行き入浴。食事は、洗い物になるべく出ないようにし、紙コップと紙皿と割り箸を使用。

キャンプ用のポリタンクを何とか購入でき、給水車に水を入れてもらい、コックをひねって水が出た時に、両手で水をすくえることに感動。両手で顔を洗い、手をこすりあわせて洗えることに感動。

停電にならなかったことは幸いだったが、家族が地震対応で仕事に出たまま数日帰ってこれず、1人で家にいる時間が多かったため、本当に不安だった。

子供の精神不安定

本人、家族共に緊急地震速報や揺れに敏感になった。

特に被災していなかったのですが、避難指示が出た時携帯は持って出ても充電備品を持っていなかったのも、連絡する度に電源の減りが心配でした

家族や事業所関係の安否確認ができず精神的に焦りを感じた。同じく利用者様に関しても同じです。電話が繋がらない（話中）こともあり焦りや不安が大きくなり眠れないこともあった。

担当利用者の方々の安否確認をいつするか（直ぐか明日か）で迷った。

自身の家が山手の方なので、津波を心配した親戚が避難してきた。食事の準備や宿泊の世話等慌ただしかった。

1人暮らし担当利用者の安否



家が傾いて玄関から出れなくなった。着替える事もできなかったし貴重品の持ち出しもできなかった。

地震当日の土砂崩れ等による道路状況、被害状況の情報をどこから入手すればよいのかわからなかった（自分の家族や職員が県外から戻れずにいた）、避難所は寒くて困った。

避難訓練時は公民館で集まるようになっているが、被災時は公民館が空いておらず誰も集まっていなかったため、実際と訓練時の行動が違い戸惑った。

自宅前道路が液状化で主水道配管が破裂し、水は出たが数日水道水の濁りで使用出来なかった。町内道路の所々マンホールが隆起し、地割れで通れない道路もあった。

地震発生時は休日で在宅中であり、津波緊急避難の状況となり、着の身着のまま、さてどこへ行けば安全かと考えつつ、とにかく市内の山の方へ車を走らせました。皆さん考えることは同じで渋滞や道路の破損等で思うようにならないこと体験しました。自分自身や家族の身の安全確保に精一杯でした。

当日は海外に居たため、状況をニュースやラインで知ったため何もなすべがなかった。帰国後、富山に戻る際に空港で飛行機の事故が発生し尚自宅へ戻ることが困難になった。職場へ行けたのは発生から3日目であり混乱は少し収まった後であったが、いる職員で対応しなければならず平時の訓練が必要と痛感した。

ケアマネで、ありながら真っ先に家族のことを気かけ、利用者のことを後回しにした事を後悔しました。現地に行きたくても車での移動に一人では不安がありました。電話連絡も難しく状況を把握する事に時間がかかりました。

河川の中流域でも津波警報によって橋が通行止めになっていてう回路に迷った。

電話などに出れない1人暮らしの方の様子

石川県にいたのでいつ帰宅できるか

地震直後にご利用者への連絡は行え、安否確認ができた。
被災状況がわからないため、被災場所が自宅、または職場でなかったため、ご利用者の情報が手元になく、必要な避難場所や医療への情報が正しく情報伝達できないと感じた。

発生直後は、電話が通じず家族の安否確認できないまま職場への招集がかかったので向かう事になった。その後、家族とラインで連絡が取れたが職場での招集業務がありその日に訪問ができない事を県外の家族から責められた。（自宅の様子を見に行きたくて欲しいと言われたが）

連絡方法

安否確認

津波がくるかどうかの判断ができず、緊急避難所に行った。いつ自宅に戻ったらいいか判断しかねた

地震での避難場所は確認済であったが、津波警報での近くに高い建物がなく、8号線までの避難に大渋滞が起きていると知人からの知らせもあり、どこへ避難すればいいか悩んだ。
避難に際して、ペット同伴は可能なのかわからず、誰に聞いてよいかもわからなかった。



出先にいたので自宅の様子がわからず不安だった。

また揺れるのではなあか不安感

近くのドラッグストアで地震にあった。家族と離れた状態で(1人で)あった。店の棚からは物が落ちてきて怖がる客もいた。私はレジをしている最中であつた。地震アラームは誰もならず。客の中でネット検索し、直後に石川で震度6だとの声が聞こえた。高齢者はカート事ふらつくため、何かにもたれようと棚に向かっていかれる傾向にあつた。棚は物が落ちてきており危険な為、レジ周りに付き添って誘導した。レジ周囲に集まり店員も店内の客も揺れが長引き強まるにつれ、悲鳴が聞こえたり「怖い」とささやく声もあつた。しゃがめる人はしゃがんでいった。しゃがめない高齢者は、レジ台に掴まってもらい支えながら揺れが止むのを待った。揺れが落ち着いてからは通常の雰囲気に戻り買い物再開する客や帰っていく客があつた。自分もマナーモードのままになっていた携帯を確認すると、家族が心配して安否確認の連絡を入れてきたこと、自宅2階では掛け時計が落下し破損したとの報告があつた。このような場合、本当は店内で留まるのではなく、店外に避難誘導した方が良かったのかとの反省もある。今から思うと、揺れがおさまると大丈夫と思ってしまい、何事もなかったかのように「大丈夫だろう」と思い込み、いつもの行動に戻る。帰る前に(自宅は土砂災害警戒区域であるため)警報等の確認や、帰路(道路)は大丈夫か等の情報収集や確認も必要であつたかもしれない。家族とLINEでは繋がっており無事を確認していたが、気になり家路を急ぐ気持ちもあつた。

ブロック塀の破損により自宅前道路を塞いでしまい、緊急車両が通れない恐れがあつた。撤去に時間がかかつた。

井戸あつたので、水が濁って使えなくなつた

事業所が海に近い場所あつた為、事業所での作業(利用者の安否確認等)が不安あつた。自身の自宅電話にて確認作業を行つていた。

避難すればいいのか、どうしていいのか迷つた テレビの情報にくぎ付けになつた

家の周辺の道路が地割れしてあり、通勤時に不安あつた。

道路、橋の寸断等による移動の制限

上司からの指示がなかつた

災害に対しての対応の不慣れさ。

利用者の安否

築年数の古い実家に住んでいる両親、石川県に住んでいる兄弟の安否が心配あつた。一時的ではあつたが、ガスが止まつた事でお湯や火が使えなくなつた。また、余震も多くあり、自分自身も家族も精神的に落ち着かず、僅かな揺れでも目が覚める等で熟睡できない日が続いていった。

独居、高齢者どうし2人暮らしの方中心に電話をしたがつながらない家もあつた

自身と家族の身の安全

一人暮らしでなかなか電話に出られない方



近所を犬の散歩中に地震に遭い、揺れがひどく立っている事ができない状態になった事が生まれて初めての経験でした。避難所に逃げる事を説明しても93才の姑は理解せず「家で死ぬ」と言い逃げない為子供達も家に残ると言い避難はしませんでした。が次の地震が起きる事を考えるとどうしたら良いかと悩みしばらくはとらわれていました。

自宅が崩壊すると思い心配であった。

地震による睡眠不足 身体的精神的な不調

先に避難所へ向かった家族の所在と安否が確認できなかったこと。

津波が来る来ないの情報を振り回された。
親の家が断水で、トイレ流せず。認知症の親の介護が大変だった。

大きな被害はなかったが、余震に対する不安が大きかった。

飲み水の確保

自分は被災しなかったが、海に近いところに家がある親戚が、家を尋ねて避難に来た

実家の家族の安否が心配だった

外出中に地震が発生したため、家族や親族の安否が心配であった。

被害が少なく、実害はあまりなかったが、精神的に不安定になった。疲労感が強かった。

自身の事で精一杯で、利用者のことに頭が回らなかった

家族の精神的な変化に対応しなければならなかった。

車での避難をしたが途中で渋滞になった、日ごろの避難用品の準備がなかった、

自宅が液状化し、片付けに追われた

自然災害対応のBCPに沿って行動。LINE登録していただいた家族はすぐに安否確認や避難指示を出せたが、電話連絡登録の方は自分の携帯電話からかけることができず、翌日に安否確認を実施。ほぼ全員に確認を取ることができた。

エコキュートのズレ

避難先の選定

すぐに家族に連絡がとれず、安否確認が遅くなった。

特に無し

水道が止まり、給水や洗濯、入浴に不便であったが通行可能な道路を通り、隣市に毎日通い何とか対応した。

避難者受け入れ時の食べ物と飲み物確保について



事務所で地震にあった。対応に追われ帰宅が遅くなり家族がかなり心配していた。

被害がなかったので、特になかった

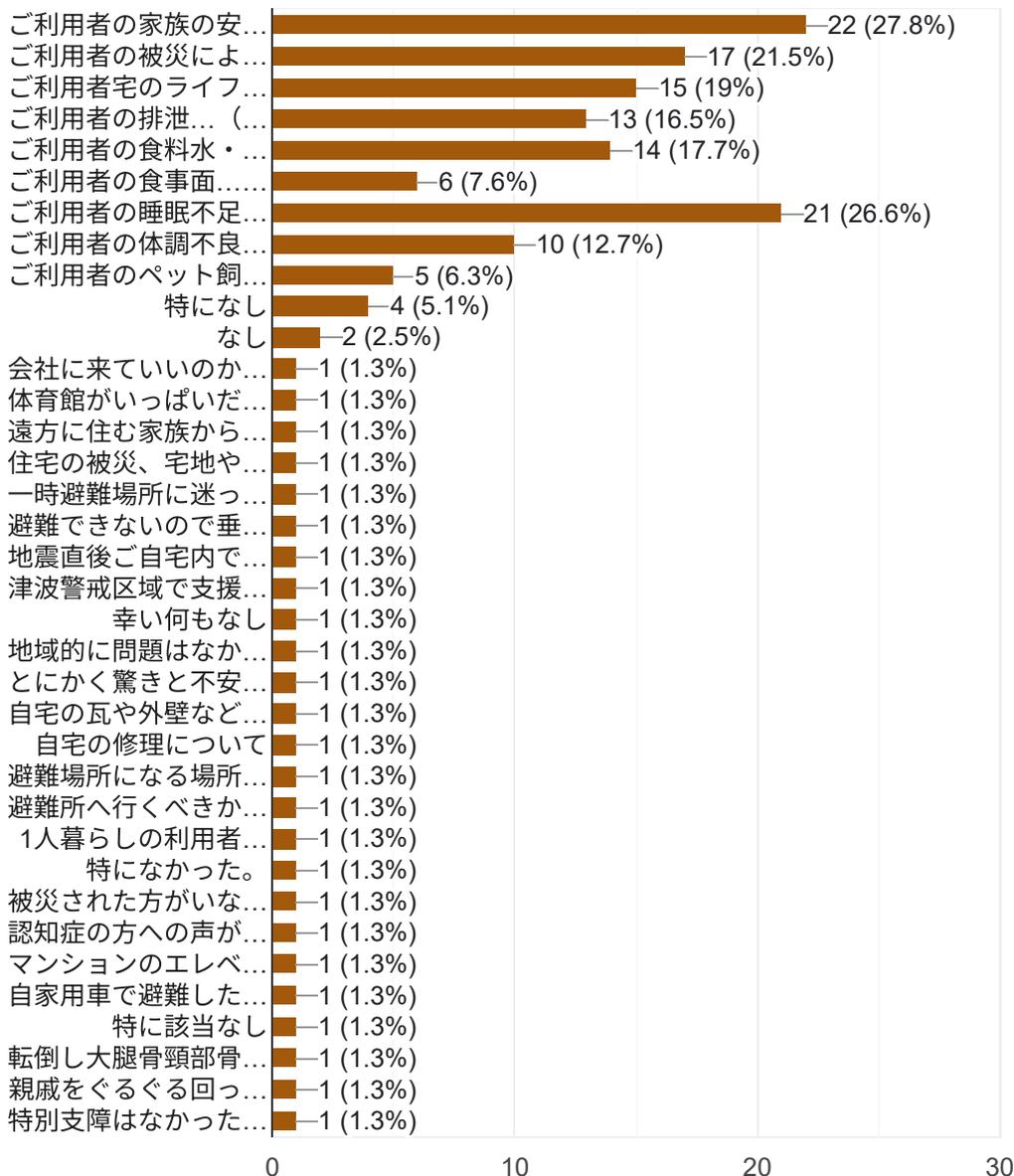
家が揺れただけで特別困った事はなかった



Q2-1 ご利用者の方が、地震発生直後に困っていたことは何でしたか 【利用者・支援対象者の被災】

以下、あてはまる項目があればチェックし、項目以外の内容は、次の設問（Q2-2）でご記入ください。

79 件の回答



Q2-2 ご利用者の方が、地震発生直後に困ったことは何でしたか【利用者・支援対象者の被災】

上記項目の具体的な内容を教えてください。

また、上記項目以外での内容について、ご記入ください。

79件の回答

特になし

海沿いの利用者が避難所に行きたがらない(避難所までの移動手段や階段昇降の困難さ)

ライフライン（断水）、自宅の片付け。

またいつ大きな地震が来て、自宅に住めなくなるかもしれないという不安。食料・住まいの確保

家族と避難したが、道が渋滞していた。

トイレが使用できなくなり、公共施設や学校等に設置された簡易トイレ等を使用することになったが、車椅子を使用している方にとって使用しづらいトイレが多かった。排泄したい時に家族に車に乗せてもらってトイレのある場所まで連れて行ってもらうことが、本人にとっても家族にとっても負担になって、水分を控える等、体調に影響するリスクがあった。

また、断水が復旧しても、下水が流れず、トイレの問題は長引いた。

自宅が半壊した利用者が避難所生活をするも、環境が変わり、認知症の周辺症状が悪化する等もあった。何度も同じことを周囲に確認したり、しまいには地震があったことも忘れてしまう等もあり、避難者からの苦情が出たケースもあった。

海側の人たちは山の方に車で避難していたが、あきらめて避難されない人もいた。

また地震がくるのではないかと安心して眠れず不眠が続いたと聞いた

当日は休日だったため、安否確認を行うことに苦労した。

避難時にオムツを持って出なかった事と、オムツ交換の場所をどこですればよいか分からなかったと話してておられた

再度、地震が起きるのではないかという精神的な不安が大きくなり眠れない、心配、家族は？今後、自分たちはどうなるのか？という気持ちをだれに伝えたらよいのか？というような更なる不安。

避難所での階段移動が大変だった。寒くて体調を崩した。ペットが居るため避難を断念された。

地震後も余震で家がつぶれるかもと不安になり、不眠になったり、情緒不安定になった方がおられた。

歩くことが出来ず避難できない。誰も声を掛けてくれない。

一番多かったのはトイレに行っても水が出ない。避難所で申し訳なくて使えない。



ライフラインが復旧しないため衛生面が保てない。

精神的な影響（災害で不安になるなど）から体調不良になっていたこと。

高齢者世帯、認知症、寝たきりなどで、避難場所へ行く手段がない。

まずは避難所へ家族の車で避難したが、渋滞で車が動かず、暗くなりお腹が空いてくるし、トイレがしたくなくてもトイレまでも行けず、何人かの他者に手伝ってもらいなんとか道路淵で排泄することができた方があった。また、避難所に避難した方の中には、トイレが洋式でなく使用できなかつたり、断水のために排泄物が流せず袋に入れて溜めてあったところもあったとも聞いた。そして、避難所に避難してもその場所で過ごすことができない方(身体的に苦痛な方、認知症による混乱等ある方等)もあり、結局早々に自宅に戻った方もおられる。

家族に避難するよう勧められても、「自分はここで死ぬ」と非難することを拒んだ

精神面のケア、タンスや家電など倒れた後の修復

電話連絡や現地に行けない。避難所が開いていない。

津波警報のため避難したが身体障害の状況やペット同伴のため避難所を利用できなかった。

1人なのでどうしたら良いのが不安になった。

不安だったこと

ご利用者が自宅内で被災しても安全な場所へ避難行動をすることができなかった。

特に聞いていない。安否確認の連絡をしたが、家族から安否確認の連絡すらないと言う人もいた。

連絡手段

避難所の確認と、いつ避難したらいいかの基準分らないと言われた

認知症で独居の利用者の安否確認、避難誘導

警戒区域は支援が入らない

地域的に問題はなかった

1/1ということがあり、避難場所の鍵が開いていなかった。
地震の影響でエレベーターが止まり、階段での避難で大変だった。
ベットの猫が家のどこかに隠れてしまい、一緒に避難したくてもできず、心配だった。

断水地区の方が水の確保に困っていた。

屋根の補修が多かった

元旦であったこともあり、連絡がつきにくかったり、家族も外出していてわからないという答えが多かった。



独居の方の安否確認が取れなかった。

物が倒れたり、食器が落ちたりした

おひとり暮らしの方が精神的な不安、ショックが大きく食事もせずに薬も飲めず、眠れず、体調不良がしばらく続いた。

どうしていいかわからず、しばらく避難所へ行ったり、怖くて外で過ごしたと聞いた

比較的被害がなく、困ったことはなかった様子

家の風呂、トイレ、屋根が壊れた。市にどう報告すれば支援をうけられるのか

棚からの落下物がある家があった

避難場所にいったが、鍵が開いておらず入れず、結局自宅に戻らざるを得なかった。避難した方は、後から聞いたと話されたが、市町村によって、水を配布される場所もあれば、なにもなかった市町村もあった。

受診について

独居高齢者は自身で動く事が難しい程の揺れであり、一人で逃げるという判断ができなかったと聞いている。

誰にどのように連絡していいかわからない。避難所等の情報が入らない

介護度が重い方を受け入れできる避難先がなかった。要介護4（片麻痺・認知・膀胱留置カテーテル）の利用者が家族と共に避難所へ行っただが、多数の避難者がおり利用者が不穏になるとベッドがなかったため、家族の車で待機した。3時間車の中で待機したが、利用者が不穏になってきたため、心配であったが、自宅へ戻った。

また地震がくるかもと不安出寝れない

なし

丁度家族が年末から帰省していたので一緒に居てくれて本人は安心感があったと思いますがもしこれが平日など一人の時はどうなっていたか予想すると不幸中の幸いだと思います。家族が自宅へそれぞれ帰る時後ろ髪引かれたと思います。

自力で動けず移動面が大変であった。

ご利用者の食事や水分の確保等について

一人暮らしのため、近隣がどういう動きをされているか、分からず、自分もどうしたらいいのか分からなかったが、近所の方が避難所に一緒に避難しようと誘ってくれ、別居家族への連絡もしてくれたと聞いた。

大丈夫と知らせたいが、知らせる方法が分からなかったと言われた

地震によって、食器が落ちて割れた片付け。



被災された方がいなかった

ひとり暮らしのかたの安否確認
避難所に行っていたり知人宅にいて連絡がつかないなど

こんなに大きな地震は初めてだったと話す人がいた

独居の方の安否確認や精神的不安。被災地在住の家族等の安否確認等。

1) 避難所に行かれたが良いが、階段が登れなかった。難聴で声が大きく、認知症もあり自分の思いで動かれる。家族に連絡がつかず、ケアマネジャーが避難所に行くまで近隣の方が困っていた。
2) 地震後の不安を訴える方が多かった。
3) 短い避難期間であったため大丈夫ではあったが、長くなるとペットの問題は大きい。
4) 電動車いす、マンションの16階。エレベーターが動かず部屋に閉じ込められた。一人暮らしで電動車いすのバッテリー交換が一人で出来なかった。食料の備蓄はあった。マンションであるため、鍵のある人しか外階段が使えず、支援に行くことも出来なかった。毎日電話で安否確認はした。精神的にもどんどん不安定になって行かれた。管理会社、エレベーター会社に連絡しても、いつ復旧するか教えてもらえなかった。

独居で抗不安薬を服用していた方。ペットの猫がいて、余震で家が倒壊するかもしれないと、猫を残してデイサービスに行くことを嫌がっていた。また不眠や不安感で、歩行時のふらつきが強くなり、独居での生活に心配があった。

自宅で過ごすことへの不安からショートステイを希望されたが、施設自身が対応に終わっているなかで受け入れは難しく、避難所へ行くことしか助言できなかった

高齢世帯、認知症等により、被害状況や今後の予測に関する情報収集・理解不足の把握

寝たきりの人の家族が連れ出すことの大変さ、車いすは3階まで避難で困った

被害がなかった

避難場所や避難時の持ち出しなどの準備が無く、どのように対応するかが分からず、ただ避難された。

避難後の生活

各方面から安否の確認連絡があったこと。

特に無し

直後ではないが現在も地震による影響で自宅にひびが入っていたり修繕が必要だができない家庭があり不安を抱えている。

連絡の取りにくい利用者・ご家族様がいました。

庭の灯籠はほとんど倒壊していた。片付けに時間を要している人もいた。室内の片付け、食器棚が倒れた、食器が落ちてきたと高齢者には片付けが大変だった様子。

なし



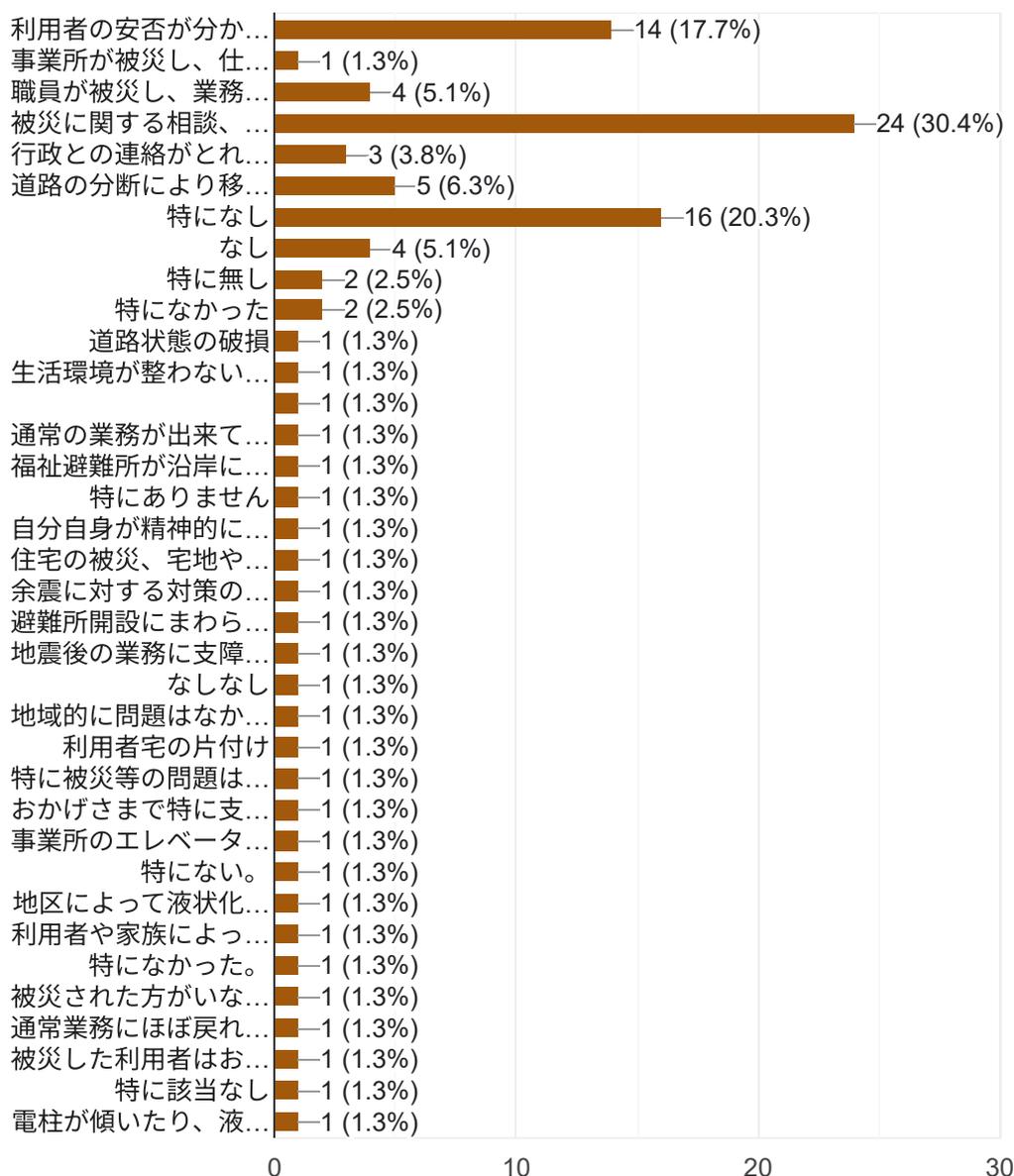


Q3-1 地震後の業務（ケアマネジメント等）において、困ったことは何ですか？

【被災直後からおおよそ1か月以内】

以下、あてはまる項目があればチェックし、項目以外の内容は、次の設問（Q3-2）にご記載ください。

79 件の回答



Q3-2 地震後の業務（ケアマネジメント等）において、困ったことは何ですか？ 【被災直後からおおよそ1か月以内】

上記項目の具体的な内容を教えてください。
また、上記項目以外での内容について、ご記入ください。

79件の回答

特になし

なし

特に無し

特になかった

被災した事業所の休業により利用できなくなるケースがあった

ご利用者の体調の変化。サービスの調整。

自宅が被災して、周りから見ると危険だと思っても、本人は、仕方ない、どこにも移るつもりはない、と思っている。

断水・下水が流れない・自宅が半壊等で、自宅で排泄や入浴ができない。
今まで住み慣れた家を離れることになるが、行き先が決まらない。
転居先を探さなければならないが、金銭的に折り合いがつかない。
水分を控える等して、尿路感染や便秘の悪化等、体調を崩してしまった。
震災の対応で家族が疲弊し、介護にまで手が回らない。本人の不穏が増した。
気持の落ち込みがひどく、悲観的になってしまった。

被害が少なかったため特になし。

通常の業務が出来ていました

利用者の避難先の確認ができない。（安否確認も含め）

津波の恐れがある場合の福祉避難所が適正であるか疑問に思った。

地震後、避難所にいることがわからず、一人暮らしの利用者としばらく連絡が取れなかった。

特にありません

自分の自宅が倒壊して住めなくなり仕事以外に手続きで市役所へ行くことが多くなった。被災者に対し行政の窓口を1つにしてほしかった。

事業所のスタッフが被災し人員が確保できない。設備が整わない。

精神的な影響（災害で不安になるなど）から体調不良になり、サービス変更が必要になったこと。

行政の支援体制が分からない。損壊した家屋や外壁、墓石など、どこに相談したら良いか聞か



れても答えられなかった。

住宅の被災、宅地や道路の液状化で変わり果てた状況に困っていた。住まいの修繕、宅地や道路の液状化に対して改善が進まない状況であった。

過去に作成済みのBCPは全く現実離れしていて効力をなしていないことがわかり作成しなおすことになる

被害は小さく、特に困る事はないが実際に被災した場合のシュミレーションができていない。

損壊家屋に対する補助金について情報がわかりづらかった。

揺れて物が落ちたり土壁がはがれた程度であるが修理に時間がかかった。

被災が少なかったため通常業務だった

自地震後の業務に支障はなかった。

大きな被害がなかった為特はない。

心的不安

寝たきりの方の受け入れ先

地域的に問題はなかった

後日避難していたとわかったが、携帯など持っていない為、連絡手段がなかった。利用者からどこへ避難すればよいか？と質問に即座に答えられなかった。

利用者宅に破損したものがあり、家族が不在のためケアマネが片付け、硝子など持ち帰り、ケアマネの自治会の不燃ごみで出した。家族不在の方についての災害時の対応はどこまでがケアマネの業務なのかと今も思う。

特はない

特に被災等の問題はなかった。

支援制度がよくわからなかった。

おかげさまで、特に支障はなかった

比較的被害がなく困ったことはなかった。

自宅の被害を受けている利用者が多く、避難所にいる人もいたので自宅への訪問が困難

どこへ避難したら良いか分からなかった事

特にありませんでした。

避難所への移動の不安



特にない。

断水で水が出ない。避難所生活での疲れや精神的負担

ない

特になし。

定期訪問が通常通りに出来ず時間を要した。

利用者や家族によって被災状況に違いがあり、訪問は慎重にした

心が平穏でなかったため、安全報告等、どのように報告したら良いか迷った。被災しなくても報告が必要なのか、被災した場合にのみ報告が必要なのか判断を迷った。
1月3日まで、連絡の取れない一人暮らしの利用者の安否を心配した。

特になかった。

被災された方がいなかった

認知症の方が地震の不安から「家が壊れて（実際には壊れていない）がけになっている、もうこんな家に住めない」と市役所に電話した。
本人の不安解消の対応に当たった。

地震での被害についての相談窓口や手続き等について聞かれ、即答できなかった等。

利用者への心配が尽きず、精神的にも疲労した。

幸い事業所内、担当利用者に大きな被害は無く、通常業務にあたる事が出来たが、被災した事業所や利用者の受け入れや対応について、どうしたらいいかわからず試行錯誤した

通常の業務以外に担当すべき内容が増え、通常のケアマネジメント業務に支障がでた。

安否確認ができたので特に支障はなかった、デイなどの事業所も被災はなかったところが多く時間はかかったが再開もできた

被災した利用者はおられないが、いつ自分たちが被災するのかという不安を抱かれる。

避難後の具体的な行動

今回の地震ではなかった

特にありません。

今回の地震では中新川地区は大した影響が無かったためあまり影響はありませんでした。

どこに移動したかわからず、近所から情報収集した

特になかったです



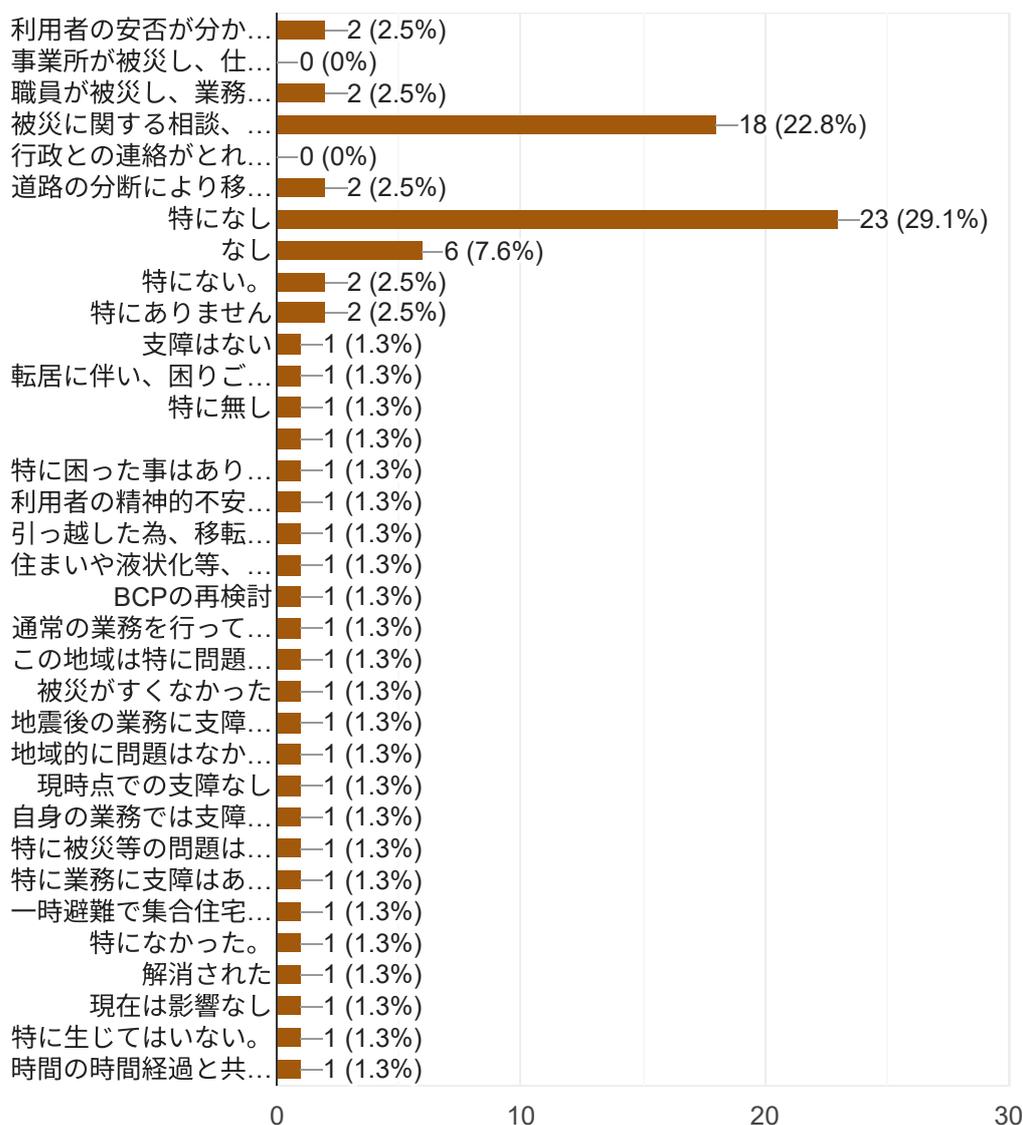


Q4-1 地震後の業務（ケアマネジメント等）において、困ったことは何ですか？

【現時点でも支障が生じている事】

以下、あてはまる項目があればチェックし、項目以外の内容は、次の設問（Q4-2）にご記載ください。

79 件の回答



Q4-2 地震後の業務（ケアマネジメント等）において、困ったことは何ですか？ 【現時点でも支障が生じている事】

上記項目の具体的な内容を教えてください。
また、上記項目以外での内容について、ご記入ください。

79件の回答

特になし

なし

特になし。

特に無し

特にありません

利用者様の安否確認。お正月の為家族の帰省があり連絡が取りやすかった。災害に対する危機管理が家族も思ってもらえた。

災害ボランティアセンターで対応が可能かどうかの判別

被災した家に住んでいる要介護者。身寄りがなく、本人の判断力も弱いので、なかなか支援が進まない

震災から9ヶ月になるが、半壊や準半壊の方達は、今、現在もその家に住み、転居先の家が決まらず、探している方がいる。転居先が決まってもリフォームが必要で、出費がかさみ、今後の生活に不安を感じている。

長年住み慣れた愛着のある家を離れる喪失感もあり、また、半壊した家がまだ新しく、ローンが残っているケースもある。

住宅改修費の支給申請をする為、リフォーム業者と一緒に検討したケースが何件もあるが、生活していて支障が生じている箇所を改修するわけではなく、今から住む家の改修の為、難しさがある。リハビリスタッフに家屋調査をしてもらったケースもあったが、全てのケースでそれができるわけでもなく、難しさがある。

金銭的に余裕があったり、支援者が積極的な場合は、サービス付き高齢者向け住宅等に入居する等されたが、金銭的に余裕がない場合、液状化で歪んだ床・傾いてきちんと閉まらない戸のまま生活している方もおられ、どこから手をつければ良いのかという感じ。

被害が少なかったため特になし。

通常の業務が出来ていました

道路や建物の寸断や崩壊があり危険性も感じながらの業務についている。

1人暮らしの利用者への声掛けが決められていない。

一人暮らしの方で、今後の生活に不安が強くなった様子があり、まだまだ在宅生活可能と思われるが施設等への入所を望まれるようになった。



頭のどこかに自宅の事、住んでいた地域の事を考え、思い出だけで辛くなり近所も行けなくなった。被災した地域の現状を見ると当時の現状がフラッシュバックする。

保険料やサービス利用料の免除期間の延長有無。利用者から聞かれても返答出来ない。

1)10月からの被災者への救済支援(特に金銭的なこと)が明確化していないことに、利用者や家族から不安の声が聞かれる。2)被災し住まいができず引っ越ししての生活の方も多く、これまで築いてきた地域での人と人のつながり、コミュニティ存続維持が難しくなっている状況あり。3)引越し先の生活に馴染めずストレスが溜まって、認知症進行している方もある。4)被災後の住まいや道路などの修繕や復旧が進まず、介護者の中には精神的疲労感が強くなり、在宅介護を諦めることにつながっている方もいる。5)市内のショートステイ事業所は職員不足から休業や受け入れ枠制限等によりレスパイト等のショートステイ利用を検討しても利用困難な状況あり。

BCPの見直しを行う

被災が少なかった

地震後の業務に支障はなかった。

大きな被害がなかった為特にはない。

心的負担

安否分からず、メールも繋がらず、訪問しても避難所におられ、連絡つかなかった事

地域的に問題はなかった

現時点での支障はなし。

マッチング支援のボランティアで医療病棟なのか介護保険病棟での入所者がわからず、病院側がマッチングのケアマネを待っていたが一向に連絡が無く、置き去りになった状態の方があった。医療保険病棟での入所者は介護保険でリストが上がってこないため病院が転院・転所のアクションを起こさなければならないことがわかり病院も混乱されていた。

特に被災等の問題はなかった。

大まかな相談窓口、支援制度について平時の時に勉強でき知っておきたい。

次、地震や大雨、洪水の自然災害があった時に、明確な方針がわからず、きっとまた迷うことになると感じている

比較的被害がなく困ったことはなかった

能登地震では特に支障はなかった

幸い、大きな支障が生じなかった為、特にありませんでした。

特にはない

特にはない。



利用者の安否確認について 優先順位をどうするか。在宅酸素等医療機器利用の方についての緊急対応をどのようにしていくか。急な対応にとまどった

ない

住めなくなった自宅の処分等相談に乗って欲しいと言われて話を聞いている。その人の大変さに共感しているが、細かい事までは提案が出来ない。

特になかった。

解消された

業務が忙しく、利用者に対する災害への対策を確認したいと思っても手が回らない。今災害が起きたとしても、対応できるか不安

通常の業務以外に担当すべき内容が継続しており、通常のケアマネジメント業務に支障がある。

時間の経過と共に災害に対する不安が無く、無関心になられたこと。

例えば、各家庭の床下の状況把握等

今回の地震では特になかった

特にありません。

今回の地震では中新川地区は大した影響が無かったためあまり影響はありませんでした。

自宅の壁が壊れたが、本人は認知症、子どもは知的障害あり。判断できる人がおらず、後見制度を利用することになったが時間がかかった。



Q5 上記の生活の困難さ、ケアマネジメントの困難さから、平常時において、どのような備えが必要と感じますか。

79 件の回答

備蓄

災害時の対応についての事前協議

緊急連絡先の再確認。災害時の避難施設の確認。災害時の持ち物必要な物品など

安否確認が必要な利用者リストが事業者内で共有できること

近隣とのつながり

介護保険施設やデイサービスで、緊急的な受け入れ対応をしてもらったり、病院でレスパイト入院を受け入れてもらったり、関係機関の方に助けていただいた。行政に相談したことも沢山あったが、一緒に考えてもらえ、対応が早く、本当に心強かった。日々の連携が大事だと思った。

今回、発災の翌日の午前中に、利用者の全員の安否確認をしたが、連絡がとれない利用者はなかった。発災時の安否確認はどのツールを使用するか本人や家族と決めておくことは大事だと改めて思った。ただ、定期的に変更の有無の確認等をし、本人や家族と共有しておくことが必要だと思う。

発災時に避難場所になる所を確認しておくこと。疾患や内服等の情報を整理しておき、優先度の理解や、必要に応じて速やかに情報提供できるようにしておく等、日頃から心がけていく必要があると思う。

携帯は常に充電。予備のモバイルバッテリーを受電。等、日頃しておくことを怠らないよう習慣づけることも大事だと思う。

今回は、BCPを実際に活用する機会になった。策定していて良かったと思った。

どこでも仕事ができるようにアイパットを持つ。紙ベースでも利用者の緊急連絡先等備えておく

緊急時の連絡体制の確保、家族全員が避難場所を統一して把握しているかの確認

- ・利用者、家族の連絡先を紙ベースで準備しておく。
- ・発災時、特に独居の方には迅速に安否確認できるよう、携帯電話を持ち帰る。

緊急時にどこに行けば衛生材料等入手できるか、その支援内容はどうなっているかの確認をしておく事

事業所として一人暮らしの方の安否確認等をどのようにするのか決めておくこと

避難場所、連絡先などを定期的に見直しし把握が必要である。いつでも適切な対応ができるように事業所内での机上訓練も含め職員間での情報の共有も必須と感じた。

具体的な緊急災害の発生を想定（豪雨、津波など）した、連絡体制や避難の際の取り決め。各地域の避難行動状況などをより具体的に情報収集が必要。

行政との話し合いが必要だと思う。



地域的に実際の被害は少なかったが、非常時の安否確認の方法や連絡先の確認等、日頃から行っていた事を更新する、被害になった利用者がいた場合の支援について事業所で話し合う等の必要性を感じた。

沿岸部に住む高齢者の対応を行政も交え話し合わなければならない

携帯電話用の充電器、水、簡易トイレ、ウェットティッシュ、日持ちのする食品、ヘルメット、フード付き衣類

○個人→水、トイレ、非常食、寒さ対策、携帯充電器の備蓄 ○職場→職員との連絡方法の共有 ○利用者→医療ニーズの高い方、独居高齢者の被災時に必要な対応についてケースごとに検討等

緊急連絡先の確認、災害時を仮定した対応をしておくことが必要だと思った。

利用者の避難方法の確認。利用者の住む地域との顔の見える関係づくり。

これまで体験したことのない事態にどのように動けばよいのか、わからないことに反省しました。日頃から災害を想定した訓練が必要であると強く感じた。
そして、住宅の安全性の確認、避難所の確認、避難所の環境整備、連絡方法、地域の方々やサービス事業所、行政等との連携や関係づくり、最新情報取得方法の確認、障害のある方、認知症の方、介護者自身への支援等など、いろいろと実体験体験から学びました。

今回は平常業務ができたので問題はなかったが、もっと大きな被害を受けた時を想定すると、利用者の連絡先を平常時から持ち歩き、被災した時に利用者に連絡し安否確認できるようにしておくことが必要だと思う。

ライフラインが途絶えた場合の連絡方法や備蓄の定期的な確認と共通認識が必要

連絡手段と地域との連携を確保できるよう定期的な話合いの場を設ける。

特になし

利用者の安否確認のためにはハザードマップと避難先の確認は普段からしておくこと、避難に支援が必要な人の災害時の支援者の有無が必要だと感じました。自身の家族の安否確認については家族間で災害時の連絡手段を決めておくことよいように思います。伝言掲示板の活用など。

いざという時の行動（避難）を紙に書いて貼って、モニタリング時に確認や話し合いをして災害時に慌てず行えるようにすること。

名簿、被災時の連絡先 利用者に災害に備えてもらう

常にご利用者の情報が把握、伝達できるようSNSにデータを集約しておきたい。
家族、親族、支援者と事前に災害時の連絡体制をあらかじめ決めておきたい。

高齢者であっても自己責任で備えが必要。他人や近隣からの支援はあまり期待できないという事を理解する。（特に災害当日）

独居の方への支援

一人暮らしの方が、多い中、一人で確認出来ない為、分担出来るように、連絡先の仕分け必要



連絡体制の整備、マニュアル作成

避難計画に加え、発災時の警戒区域に該当する利用者の支援避難

備蓄、緊急連絡先の確認等

能登や珠洲など実際に被災した地域のような状態になったら、という想定。

飲食の確保。担当者の避難先の確認。一人暮らしや高齢世帯等の担当者の自治会長、民生委員等の連絡先の確認。避難時に持って行くものリストの作成。(薬、お金等の普段避難用バックに入れておけないもの)

親族不在の方について非常時に行政がどこまで支援してくれるのかを明確にさせていただきたい。ケアマネの業務ではないがやらざるを得ないことが(日頃から)多すぎる。精神的な負担が大きい。

緊急時の対応の確認

直後の行動については動く前に状況を確認するための情報収集を行った方が良かったと思った。いつもの居場所とは異なる場所で遭遇した場合、避難場所の確認や周囲への働きかけ・アドバイスが的確にできたなら良かったと思った。

災害時のケアプランが必要と感じた。被災して他施設に移ることになれば、情報のひとつとして活用できるのではないか。

非常用飲料水と食品の確保

人数の多い、複数事業者をもっている法人はよいが、少人数や単独の事業所が業務をできなくなった時どうしたらよいのか?等広域BCPも検討していかなくてはいけないのではないか

利用者の名簿、連絡先、避難誘導の必要な人のリストアップ、避難先の把握と移動手段の確保、支援体制の確認があれば安心。でも実際は難しい課題だと感じる。

連絡体制 受診の困難さのため内服の確保 避難場所の確認

被災時の物品等の常備。緊急時の連絡体制の見直しと周知

要援護者の避難行動について地域や行政が把握をして緊急時に動けること

水道・電気などライフラインが止まった時にどのように対処するのか、いまだに頭ではりかいているものの、何もしていません。正直、日頃の業務に追われて、災害の備えなど何も考えていません。

日頃の心がまえ

利用者はもちろんだが、ケアマネ自身が無事でない事には何もできないと思う。今回は幸いにも道路の状況もそれ程酷くなかったが、もし道路が寸断される等の事象が起こった場合は事務所に行く事すら困難になる可能性がある。日頃からテレワークができるような環境を整える事も大切かと思う。

緊急連絡体制の整備(職員・利用者) 非常時対応の訓練

今回はけがをされた方はおられなかったが、ケアマネだけでは状態把握が困難なので



特に独居・高齢世帯等地域の方との情報共有た連携体制作りが必要と感じた。

介護度の重い方の避難所の確保とその周知

避難所をケアプランに記入している

利用者、家族の連絡先を即座に見れるようにしておく事。連絡先の優先順位を決めておく事。

食料と飲み物の蓄え。紙おむつや尿取りパットの古い物を保管して簡易トイレの代用にするなど身の回りの事について予測して備える。利用者の情報を紙ベースで保管して常に入れ替えを丁寧に行う。

いつ災害が起こるかわからないので常に心がけをしっかりとしておく事が必要。

もしものときに備えて、利用者一人ひとりに即した緊急時の対応をサービス担当者会議などに併せて、改めて話し合いをして情報共有が必要と感じた。

携帯電話の持ち出しの注意喚起と着信ブロックや迷惑電話対策を一時的に解除していただければと思う。

いつ、災害が来ても動けるように、心構えとシュミレーションしておくこと。

緊急時の連絡先の確認。地域の避難計画書の提出。

市外に避難された総合事業対象の方が介護予防・生活支援サービス利用を開始するにあたり、震災後で混乱している地元市町村に事務手続きについて何度も確認しなければならず心苦しかったです。介護サービスのようにスムーズに手続きできるようシステムが変わればいいのになと思いました。

ひとり暮らしや高齢世帯は近所や民生委員などの協力無くして非常対応しきれない

緊急時の連絡先の把握、避難場所の把握

BCP計画の整備や確認。

ケアマネジャー同士のインフォーマルなライングループで常に情報交換をしたり、利用者の救助の協力、ショートステイの確保など中まで助けあえて良かった。

不安になりやすい方を事前に把握し、早めに連絡をとり、フォローを行う。

実際に想定した初動の確認やBCPの整備が必要と感じた

十分な人員配置

避難体制の確認、近所など

安否確認の連絡体制

ケアプランに個別避難計画の策定と、地域での避難訓練や防災の啓発、そして地域のサービス事業所間での復旧時の協力体制を取り交わす事。



地域の個性を踏まえた個別具体的な避難訓練の累積

ハザードマップの確認

他事業所との連携。利用者様の緊急連絡先、避難所の共有

特に無し

BCPの具体的な再確認を定期的実施する。

家族との連携や避難場所の確認

家族構成の把握

ハザードマップで利用者宅の状況を確認しておくこと

災害時の避難方法などの確認

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 - [利用規約](#) - [プライバシー ポリシー](#)

このフォームが不審だと思われる場合 [報告](#)

Google フォーム



[Redacted content]

